

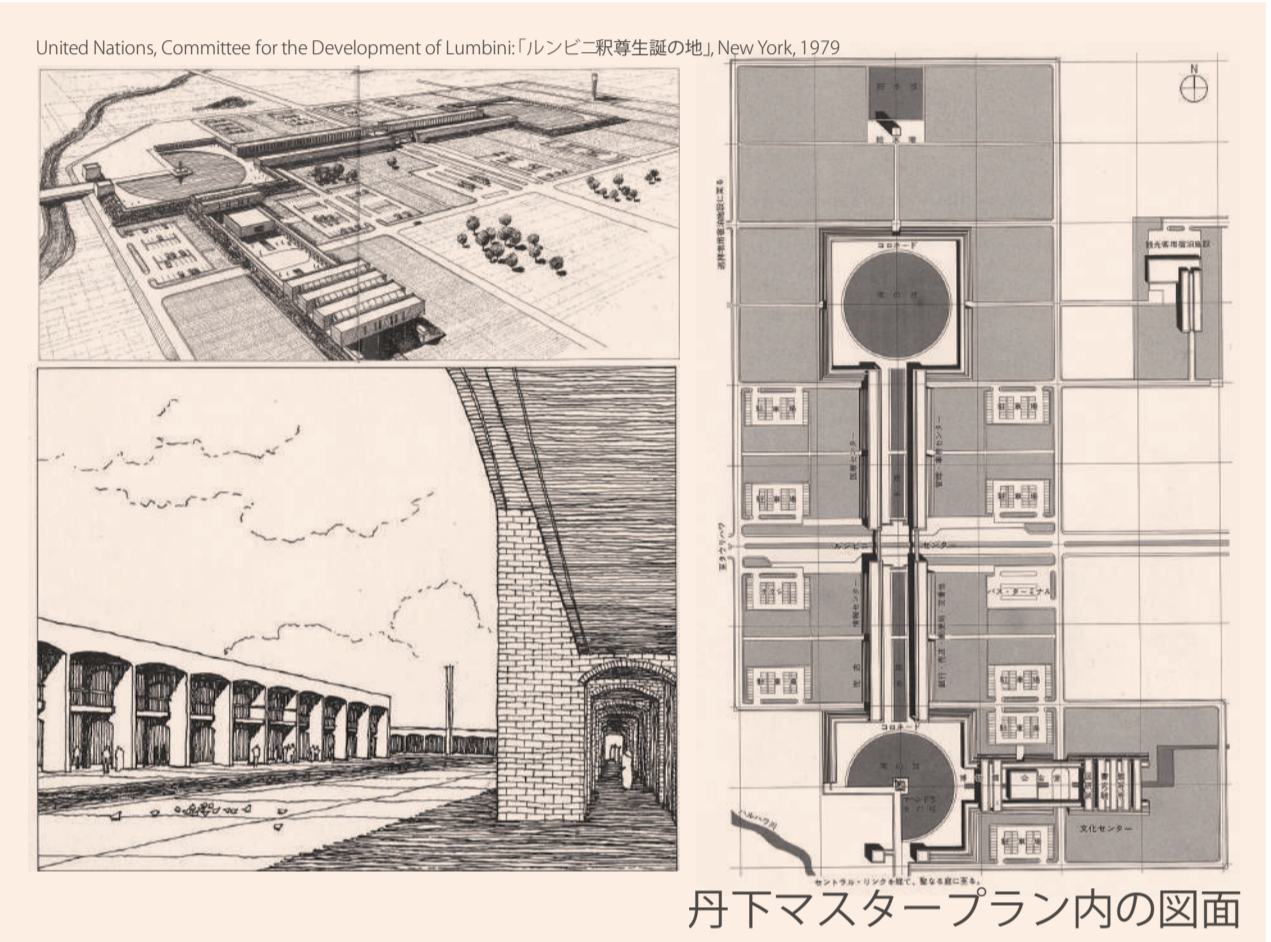
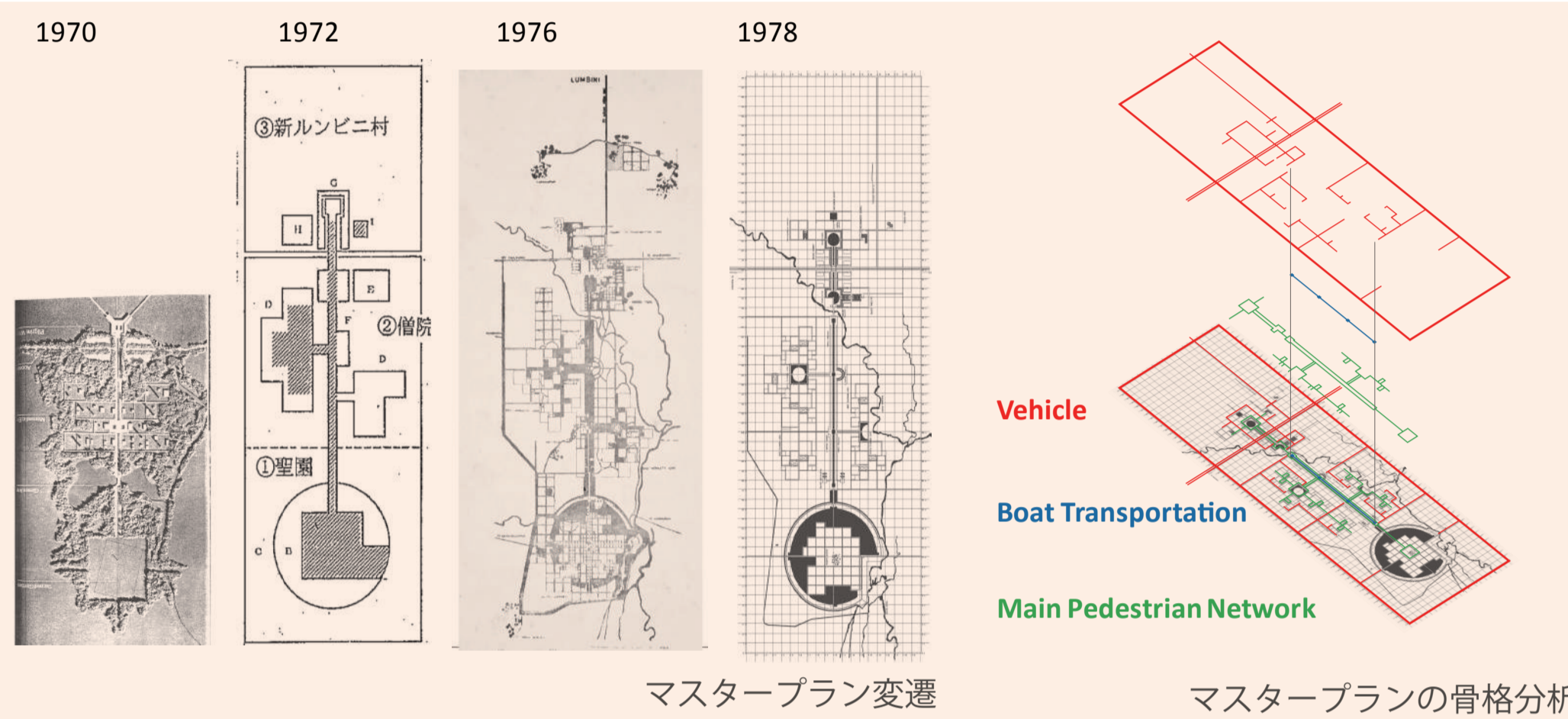
1997年ユネスコの世界文化遺産に登録された「仏陀の生誕地ルンビニ」には、当研究室の創立者である丹下健三先生がその整備方針をまとめたルンビニマスタープラン(1978年)があります。しかし長年に渡る整備事業の遅れにより、マスタープランを無視した無秩序な開発や、当時想定していなかった問題が生じてきました。

ユネスコの依頼により西村教授がリーダーを務める国際専門家チームの1つとして丹下マスタープランの再解釈を通し、整備開発事業に対する助言を行い、周辺地域に点在する遺跡群に対する保全計画観光計画を検討しています。

LUMBINI 丹下プランに基づいた整備提案 New planning according to the master plan

■マスタープランの再解釈

散逸資料の収集や当時の関係者ヒアリングを行い、丹下マスタープランが最終形に辿り着くまでの変遷を追うことで、観光需要や経済状況が変化した現代においても適用可能な設計原則及び全体骨格を明らかにしました。



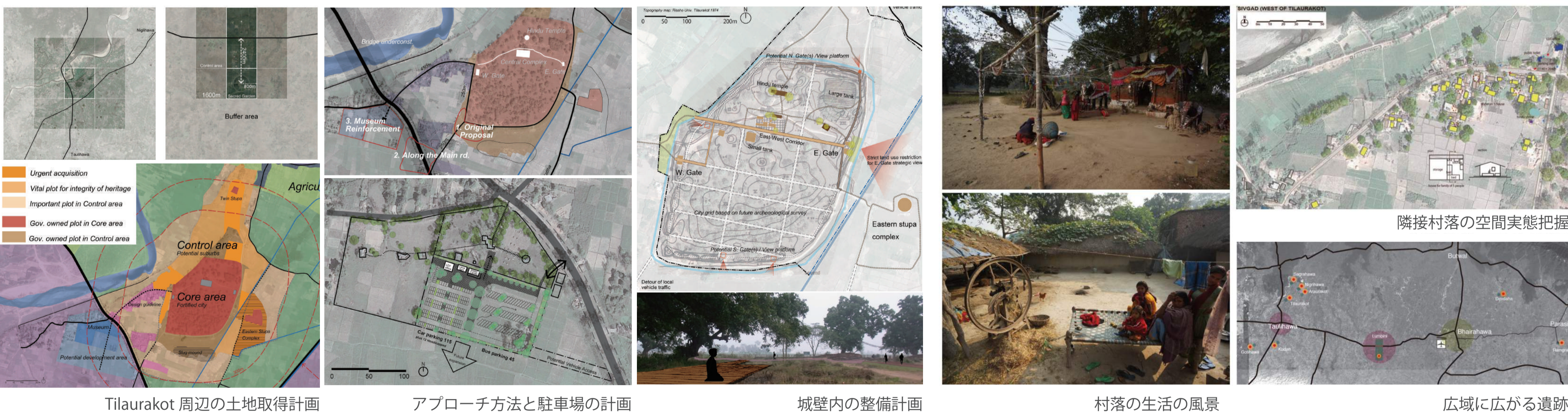
SURROUNDING AREA 周辺主要仏教遺跡の保全手法検討 Studying the preservation of the area

■Tilaurakot (世界遺産暫定リスト) 整備計画

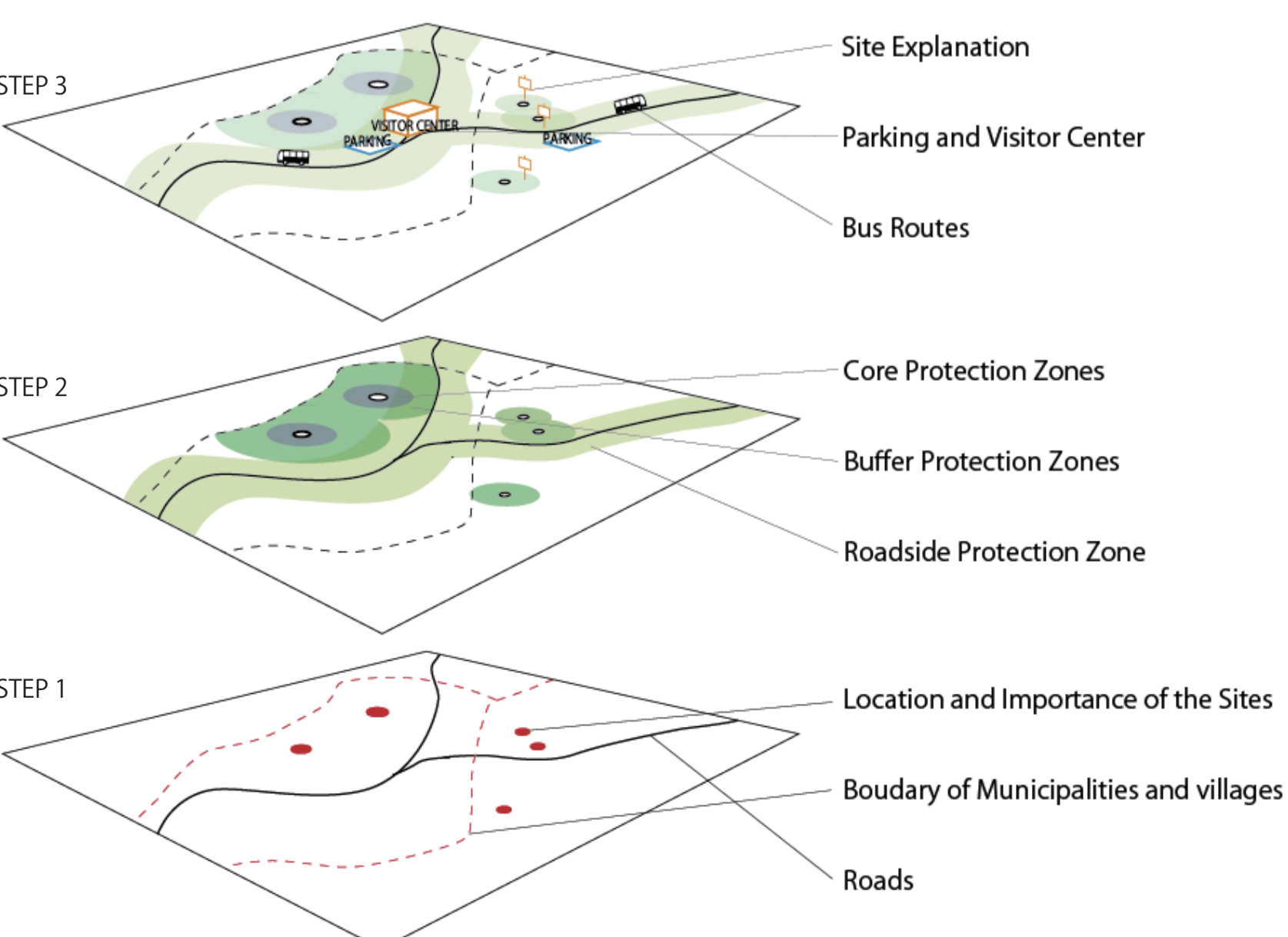
Lumbini 周辺に存在する仏教遺跡の一体的な保全を行う第一歩として、次期世界遺産と言われる Tilaurakot の保全計画を提案した。丹下プランでの反省を活かしつつも、取得できる土地が限られているため、新たな手法による面的な保全手法が求められる。

■周辺村落の調査

面的な保全には不可欠であるのは周辺住民の理解である。仏教徒ではない周辺の村民の生活を調査し、あるべき将来像やそこまでのステップを模索した。



SURROUNDING AREA ルンビニ周辺地域の保全計画立案に向けた3つのステップ (カピラバスツ郡)



文化遺産を管轄するネパール政府考古局にはルンビニやティラウラコット等の主要遺跡以外、そのリストや記録がなく、保存管理も十分行われていない。地域保全計画立案には遺跡群の正確な地図情報が必須となる。

私たちはその第一歩として、カピラバスツ郡(ティラウラコット所在)の遺跡群を対象に、現地考古学者らと GPS (Global Positioning System) を用いた記録調査を行い GIS で地図化した (STEP1)。次年度では、カピラバスツ市が設定する保全地区範囲の見直しと、現行の規制内容(接道義務・接道要件及び建築の階数・高さ制限)に対する検討を行い (STEP2)、地域の遺跡保存と周辺地域の一体的な保全と、観光計画を踏まえた地域保全計画を立案する予定である (STEP 3)。